

第153回交流フロア運営会議（議事概要）

1 日時場所

日時：2025年1月8日（水）18：30～20：00

場所：伊丹市立図書館ことば蔵1階交流フロア

2 参加者 11 名

3 会議内容

＜新規内容＞

（1）きっと役立つ！偉人の名言・名句等をわかりやすく解説する講座

【概要】

- ・講演会などで名言を紹介すると喜ばれることが多く、講座として実施する。
- ・参加者とのディスカッションもしたいと考えており、1時間15分で15人の講座としたい。
- ・出来るだけ広く知られていないものを取り上げて解説したいと考えている。

【意見】

- ・紅旗征戎吾が事に非ずとは、どの様な意味か？
→読まれた時代は、戦が多く、朝廷の旗を立てての戦は、藤原家の行うことではなく、朝廷を維持するために貴族文化を守っていくことが責務だと言っている。
- ・レスプリ・デ・レスカリエの意味は？「やってみせ、言って聞かせて、させてみて・・・」は山本五十六の言葉か上杉鷹山なのかなどのネタはどうか？
→レスプリ・デ・レスカリエの表す意味は、別れてから言うておけば良かったと思うこと表している。やってみせについては、ネタで使えるので考慮する。
- ・人によって名言の解釈も違うと思うので、それについて話し合うディスカッションも面白い。

（2）キッズサバイバー講座

【概要】

- ・2025年災害キッズサバイバー講座の開催について、休暇取得の事も考慮して定期的に複数回するスケジュールを立てたい。
- ・参加者についても、複数回にわたって参加してもらえば個人のレベルアップにもなる。講座自体もフィードバックを受けやすく講座を充実させることが出来る。

【意見】

- ・避難所での香害に関わることも付け加えて欲しい。
- 考慮すべき内容であるが、今回考えている講座では、避難所での話ではなく、災害発生前から災害発生時直後の講座なので馴染まない。障害がある方たちについては福祉避難所が

立ち上がるが、立ち上がるまでに時間がかかるので自宅避難できるようにすることが良いと考えている。

- ・提案書からは、災害時のどのフェーズを対象にしているか、キッズサバイバーの意味合いが解り難いと感じた。また、1年通じて参加となると参加者のハードルが高くなる。通年で来たくなるようスタンプラリーなどするのはいかがだろう。

- ・このイベントとは別だが、以前に避難所運営ゲーム（HUG）をしたことがあり、香害を考慮して実施することは出来ると思う。

（３）我が家の耐震診断してみませんか～安全に暮らせるお住まいを目指して～

【概要】

- ・震災により木造住宅の倒壊が起こっている。簡易耐震診断を自ら行い、自宅の木造住宅の耐震性を知る。

- ・同一イベントを3か月に1回程度実施したい

【意見】

- ・同一イベントを年数回する場合、参加者の確保が難しい。切り口を変えて行ったり、シリーズ化するなどの工夫がいるのではないか。

- ・簡易耐震で大丈夫となったが、地震でつぶれた時のことも考慮する必要があるのではないか。

→簡易耐震では倒壊の可能性があるほうに結果が出るようになっているので心配ないと考えている。

（４）これからの木造の住まいを考えよう ～代々残せることが出来るすまいを～

【概要】

- ・家屋の倒壊は周囲の道路や住宅にも影響を及ぼすことから、災害に強い住まいは近隣のためになる。

- ・流行りやデザイン、コストにとらわれない強靱で気候変動に耐えられる住まいを考える。

- ・同一イベントを3か月に1回程度実施したい

【意見】

- ・構造モデルをみるのであれば、参加者が少ない方が良いのでは。

→参加者は多い方がいいので、後で触れるようなことなど工夫する。

- ・建売でもココ見れば耐震や雨漏りしにくいなど分かる話が聞きたい。

→マニアックな話でよければ、左官などの技術別の話もできる。

- ・はじめは、間口を広げて置きだんだんとマニアックにすることも良いのではないか。

- ・ヒートショックの対応で階段やトイレの窓に断熱材を付けたが効果があるように感じた。

→効果はあると思う。また、隙間をなくせばより効果が出る。

（５）化学物質過敏症「香害」を知ろう

【概要】

- ・パネル展によって化学物質過敏症のことや香害について周知し、患者のことや環境汚染について考える機会を提供する。
- ・香害により職を失ったり学校へ行けなかったりする人がいる。柔軟剤などによるイノセント・ポリューション（悪意無き汚染）について周知し、知らない間に加害者になっているかもしれないことを周知する。

【意見】

- ・ことば蔵で市民イベントとしてする場合、パネル展ではなく交流イベントとして１時間から１時間半の講演として実施する必要がある、付随してパネル展示の形にするのが良いのではないか。
 - ・患者さんを含めた交流会などが出来れば、化学物質過敏症について知ってもらえるのではないか。
- 化学物質過敏症の患者はここに来ることが出来ないので交流会は出来ない。パネル展を実施している不安虫（ペンネーム）さんは、患者の配偶者で化学物質過敏症ではないので講演をすることは出来ると思うので確認してみる。

<イベント報告>

（１）１２月７日（土曜日）：乳幼児の予防救急

総務省の救急車適正利用の推進活動の一つであるが、救急車を呼ぶなということでない。前もって対応することで病気やケガを防ごうというとりくみです。今回は、子どもと一緒にとしたことで参加者が少なかったので次回は興味のある人として参加者を増やして実施したい。

（２）１２月１４日（土曜日）：我が家の簡易耐震診断してみませんか？

自分の住まいの耐震性能が計算できますという企画で、その結果が気になる場合は、伊丹市に相談するよう促すイベントになっている。参加者が少なかったが、参加された方が真剣に取り組んでいたので続けていきたいと考えている。

（３）１２月１５日（日曜日）：ことば蔵こども作戦会議 2004

１月１９日の本番イベント開催に向けた会議を行った。内容は、チラシの作成や接客プラン、景品など当日に必要な資材の確認など。輪投げに関しては、輪投げの形状の工夫や距離を変えることで難易度を変えるなど大人から子どもまで楽しめるものになっている。

（４）１２月２５日（水曜日）：漫画を語ろう！

５人の参加者があり、タイムスリップやいじめの話などの話題で盛り上がった。また、今年

も漫画家が集まるパーティーに招待いただけることになった。参加希望の場合は、連絡をしていただきたい。

(5) 1月4日(土曜日): ミライのめいしをつくろう

過去に事前申込制で行ったイベントをアレンジして、参加者が来た順に作成する形で行った。子どもによって作成時間に違いがあるので子どもごとに取り組めるところは良かったが、全体での名刺交換が出来ないマイナス面もあった。セミナー要素がない代わりに家で話し合いが出来る資料を配布した。お父さんの会社に入社するという子がいたのが印象的であった。

4 次回の運営会議 2025年2月5日(水) 18:30～ ことば蔵1階 交流フロア